

全国学力・学習状況調査などからみえる学校の特長

1. 全国学力・学習状況調査結果から見えるもの

～全体的な視点～

- ① チャート図による分析より相対的に学力がかなり高い地区である。
- ② 箱ひげ図より、一部の学年では数学における「思考・判断・表現」と国語における「情報の扱い方」に課題が見受けられる。
- ③ 令和6（2024）年度卒業予定学年において、小学校から中学校にかけて、箱ひげ図の箱部分が左側へ移行している。要因として、私学進学者が100名超や中1ギャップなどが要因として考えられる。
- ④ 全体的に学力に課題のある児童・生徒が一定数おり、学力が二極化している。

▶令和8年度(2026年度)卒業予定学年について、文部科学省相関係数(児童質問紙－教科)全国【表】、相関係数(生徒質問紙－教科)全国【表】をふまえ「児童・生徒質問用紙」から見えるもの

- ① 「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」【P12】
「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」と回答した児童が10%強いる。
- ② 「今回の算数・数学の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」【P12】
「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」と回答した児童が10%弱いる。
- ③ 「国語、算数の授業の内容はよく分かりますか」「どちらかといえば、あてはまらない」を含み国語、算数で4～20%程度がわからないと回答。【P12】
- ④ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」【P10、P11】
「どちらかといえば、あてはまらない」「あてはまらない」を含みあてはまらないと30%程度が回答
- ⑤ 「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」【P11】
「どちらかといえば、あてはまらない」と回答した児童が10～15%いる。
- ⑥ 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」【P9】
「どちらかといえば、あてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童が約25%いる。
- ⑦ 朝食を毎日食べていますか【P1】
「どちらかといえば、あてはまらない」、無回答を含み、食べていないと回答した児童が0～15%いる。
- ⑧ 「国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか」【P10】
「どちらかといえば、あてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童が20%弱
- ⑨ 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」【P9】
「どちらかといえば、発表していなかった」を含み、24～34%が発表していなかったと回答。

- ⑩ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【P2】

「30分より少ない」、無回答を含み、4～17%の児童が「しない」と回答。

- ⑪ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【P10】

「どちらかといえば、あてはまらない」「あてはまらない」と30%弱の児童が回答

2. 社会情動的スキル（非認知的スキル）【OECD2021】の枠組みごとの考察から見えるもの

（令和8年度(2026年度)卒業予定学年）

下記 OECD（経済協力開発機構）2021 の社会情動的スキル（非認知的スキル）分類ごとに項目を抽出し考察する。

□□ 参考情報 □□

① 目標の達成

責任感：目標を達成する前提でのやり遂げようとする気持ち

自己抑制：目標を達成する前提で感情をコントロールする力

② 感情のコントロール

楽観性：「うまくいく」、「成功する」などと物事や事象に対し前向きに考えられる力

【ex.災害があってもなんとかなる。アクシデントがあっても否定的な考えにならない。】

ストレス耐性：精神的なプレッシャーなどに耐えられる力

③ 協働性

共感性：他者の感情を推察若しくは感じとれる力

協調性：主張や立場が異なる者と円滑に対話することができ、同じ目標に向かって行動することができる力

④ 開放性

好奇心：様々なことに興味をもてる力

創造性：新たな自分を追い求めて探求する力

⑤ 他者とのかかわり

社会性：よりよい集団づくりに向けて、働きかける若しくは円滑にかかわることができる力

積極性：自分の個性をふまえ他者の個性と前向きに関わろうとする力

⑥ 複合的な能力

批判的思考：よりよい思考を行うために、目標や文脈などに応じて論理的に考え構築する力

自己効力感：目標に向き合ったときに「うまくいく」、「成功する」など自分が前向きな思考をすることができる力

【ex.新しい目標や苦手とする目標に対し、前向きに考え行動することができる力】

1. 目標の達成(責任感、自己抑制)

～責任感～

- (1) 家庭学習の時間が「2時間以上」、の児童が下記のとおり。
平日で40～50%前後、
休日で45%前後
- (2) 60%超が学習塾・家庭教師に教わっている。
⇒多くの小5以降の児童が学習塾・家庭教師のもと家庭学習をしている。
家庭での仕事に関する考え方、家庭学習の状況【P2左側】
- (3) 「何事にも一生懸命努力する」、「難しいことがあってもあきらめない」で、「どちらともいえない」「ややあてはまらない」など
小5で30～40%
- (4) 「夢中になっても、しばらくするとすぐに飽きてしまう」でもあてはまる」「ややあてはまる」
30～40%、

根気強さ、継続性に関する回答【P7】

—考察—

家庭で過ごす時間の多くを学習塾などで過ごす児童が多い一方、根気強さといった面で課題がある児童が一定数いることがうかがえる。

～自己抑制～

- (5) 「自分の気持ちを態度や表情にだす」「つらい気持ちになることがあったときは、態度や表情に出す」
「ややあてはまる」「あてはまる」が50%前後
- (6) 「自分にだけよいことがあったとき、その気持ちを態度に出さないように注意する」
「ややあてはまる」「あてはまる」が小5で60%強、小6で30%強

自己制御に関する回答【P6】

—考察—

かなり周囲へ気遣いし自己コントロールを小5でみせるものの、小6では下落する。勉強疲れなのか？何らかのストレスが発生しているのか？詳細な分析が必要。

2. 感情のコントロール(楽観性、ストレス耐性)

～楽観性～

- (7) 「自分にはよいところがあると思いますか」
「あてはまる」が50%強
- (8) 「頑張りやである」
「ややあてはまる」も含め60%前後

自己肯定感に関する回答【P3/4】

—考察—

半数を超える児童に自己肯定感が認められるものの、それ以外の児童の自己肯定感には課題が見受けられる。

～ストレス耐性～

- (9) 「イライラを感じる時は、考え方を変えて落ち着いていられるようにする」
「ややあてはまらない」も含め正直に回答してくれた児童が20～30%
- (10) 「家の人にほめられることがある」「家の中にホッとできる場所がある」
「どちらかといえば、あてはまらない」と回答した児童が10～20%

ストレスに関連する回答【P1/6】

—考察—

多くはないものの自己肯定感に課題がある児童の中に精神的な部分や居場所的な場所に課題を抱える児童がいます。

3. 協働性(共感性、協調性)

～共感性～

- (11) 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」
～「人の話を聞くときは、その人が言いたいことは何かを考えながら聞く」
「どちらともいえない」を含み20%前後の児童が「あてはまらない」で回答。

他者との関係に関連する回答【P5/6】

—考察—

多くはないものの他人を理解しようとする、他人への関心が低い、児童が一定数いる。

～協調性～

- (12) 「家の仕事をしていることによって、あなたに起こっていることはありますか。」の問いに対し、「することは無い」「家の人以外と話す時間が減る」「自分のことをする時間がない」「とても疲れることがある」「いろいろなしやすい」など複数回答形式において70%程度で否定的な感想を回答している。

協調性に関する回答【P2/5/7】ほか

—考察—

「家の仕事」について、学習塾・家庭教師との家庭学習で忙しい中、多くの児童が「家庭の仕事」をしている。複数回答なので詳細な分析はできないが、お手伝いについて否定的な考えを持つ児童が一定数いる。

4. 開放性(好奇心、創造性)

～好奇心～

- (13) 「新しいことに挑戦することは好きだ」
 (14) 「誰もやったことがないものに興味がある」
 (15) 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」など
 「どちらともいえない」を含み「あてはまらない」と25%前後の児童が回答。
 (26) 「新聞を読みますか」
 「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童が60%程度。
 (27) 「テレビや新聞等でニュースを見ている」
 「見ている」と回答した児童が60%程度。

好奇心に関する回答【P7/8】

—考察—

情報収集について、積極的に自身で収集する傾向は低いがニュースなどに関心はある。また、新しい事柄に対して多くはないものの25%前後の児童の好奇心が低い傾向にある。

～創造性～

- (16) 「将来の夢や目標について」
 「持っていない」が約20%
 (17) 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」
 「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」で約80%

創造性に関する回答【P4/7/9】

—考察—

将来の夢について控えめな回答が目立つ一方、他者から得られる新たな自己発見に関する意識を多くの児童が持っている。

5. 他者とのかかわり(社会性、積極性)

～社会性～

- (18) 「あなたは、困ったときに相談できる先生がいる」
 「どちらかといえば、あてはまらない」を含み20～40%の児童があてはまらないと回答
 (19) 「あなたは、困ったときに相談できる友だちがいる」
 「どちらかといえば、あてはまらない」を含み10～20%の児童があてはまらないと回答
 (20) 「あなたの学級は、授業中間違って笑われたい」
 「どちらかといえば、あてはまらない」を含み17～35%の児童があてはまらないと回答

社会性に関する回答【P4/5/10】

—考察—

学校環境において、周囲を信用していないと感じている児童が一定数存在している。

～積極性～

- (21) 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
 「どちらかといえば、あてはまらない」を含み50%弱の児童があてはまらないと回答
 (22) 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
 「どちらかといえば、あてはまらない」を含み20～30%の児童があてはまらないと回答
 (23) 「自分の考えを積極的に発言している」
 「どちらかといえば、あてはまらない」を含み40～50%があてはまらないと回答

積極性に関する回答【P4/8/9】

—考察—

規範意識は多くの児童があるものの、積極的にかかわろうとする意識の児童は全体の半数程度、規範意識もてない児童も一定数存在している。

6. 複合的な能力(批判的思考、自己効力感)

～批判的思考～

(24) 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」

「どちらかといえば、あてはまらない」を含み約 20%の児童があてはまないと回答

(25) 「授業で学んだことをふだんの生活にいかすようにしている」

「どちらかといえば、あてはまらない」を含み 15～30%の児童があてはまないと回答

(26) 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」

「どちらかといえば、あてはまらない」を含み 10%前後の児童があてはまないと回答

批判的思考に関する回答【P3/9/10】

—考察—

学習することの本質的な意義について、理解されていない児童が一定数存在する。

～自己効力感～

(27) 「自分は何が得意で何が苦手かをわかっている」

「どちらともいえない」「無回答」も含み、10～16%の児童があてはまないと回答

(28) 「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか」

「どちらかといえば、あてはまらない」を含み 20～30%の児童があてはまないと回答

自己効力感に関する回答【P3/11】

—考察—

ほとんどの児童が自分の個性を自分なりに把握しているものの、自分の成果には自信がない一面をみせている。